

令和 8 年笛吹市議会第 3 回定例会

令和 8 年笛吹市議会第 3 回定例会の開会に当たり、前回定例会以降の行政運営の状況について申し述べるとともに、提出した案件につきまして、その概要を御説明申し上げ、議員各位並びに市民の皆様に御理解を賜りたいと存じます。

7 月 28 日に発生した「令和 8 年熊本地震」及び 8 月 13 日から 14 日にかけて発生した「令和 8 年 8 月千葉豪雨」においては、甚大な被害がもたらされ、多くの尊い命が犠牲となりました。亡くなられました方々には、衷心からお悔やみを申し上げるとともに、被災されました方々にお見舞いを申し上げます。

本市では、地震発生から 6 日後の 8 月 3 日から、熊本県氷川町を対象とした、被災地の復旧、復興を支援するため、ふるさと納税の代理寄附の受付を開始しました。これは、被災した自治体の代わりに他の自治体が寄附金を受け付けることで、被災自治体の業務負担を減らし、いち早く寄附者からの支援を被災自治体に届ける仕組みです。8 月 24 日現在、38 件、76 万 5 千円の寄附金が集まっています。

また、山梨県が派遣する応援職員として、8 月 18 日から 24 日まで、職員 2 人を熊本県熊本市へ派遣しました。派遣先では、指定避難所の運営支援として、避難者の入退所情報の整理、食料・水・生活物資の配布、熱中症対策、衛生環境の維持などの業務に携わりました。

さらに、現在、市役所の各庁舎において、今回の熊本地震及び千葉豪雨への義援金の受付を行っています。

今後も、一日も早い被災地の復旧・復興に向け、支援をしていきたいと思いをします。

次に、農業被害への対応についてです。

7 月 25 日夕方に発生した大雨や強風により、ブドウ棚の倒壊等の農業被害が発生しました。間もなく収穫を迎えるという時期に、このような被害を受けられました皆様に、心からお見舞い申し上げます。

ブドウ棚の再建には、多額の費用を要することから、被害発生直後から市として何らかの支援ができないか、というお声を多数いただいています。

農業被害への備えとしては、農業共済制度によるべき、というのが国の基本方針であり、多額の国費が投じられています。しかし、ブドウ棚については、農業共済の対象施設ではないことが確認されました。これは、明らかに制度の不備であると考えますので、国及び農業共済組合の全国組織に対し、山梨県とともに、ブドウ棚を対象施設とするよう要望活動を実施します。

一方で、制度化には時間を要することが想定されますので、それまでの間の対応とし

て、ブドウ棚の設置費については既存補助制度を活用するとともに、その対象とならないブドウ棚の撤去費に対する、臨時的な補助制度について、県と協調し検討します。

次に、特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」への対応についてです。

7月7日、大月市において、県内では初めてクビアカツヤカミキリが確認され、7月15日には、甲州市の果樹園においても確認されました。

これを受け市では、7月29日に、市、市議会、JA、農業関係者、建設業協会、区長会、県関係機関で構成する「第1回笛吹市クビアカツヤカミキリ被害防止対策本部会議」を開催し、関係機関が連携した中で、市民の皆様にも御協力いただきながら、万全の態勢で防除に臨むことを確認しました。

また、8月5日には、対策本部で決定された方針に基づき、事業を具体化、推進していくため、市の課長職、JAで構成する「第1回笛吹市クビアカツヤカミキリ被害防止対策推進部会議」を開催し、成虫の発生期である8月から、薬剤散布による徹底的な封じ込めを行うべく、防除を実施することとしました。

早期の実施に向け、8月10日には、クビアカツヤカミキリ被害防止対策に係る予算の専決処分を行い、現在、防除を実施しているところです。

今後も、被害を未然に防ぎ、日本一の桃源郷とそれを支える市民の生活を守るため、関係機関と連携を図りながら、迅速かつ的確に取り組んでいきます。

次に、第47回山日YBS旗争奪山梨県市町村対抗一般男子ソフトボール大会の結果についてです。

7月5日に緑が丘スポーツ公園野球場で決勝戦が行われ、本市の代表である笛吹Aチームが、最後まで粘り強く戦い抜き、終盤に逆転し、笛吹勢として初の優勝を果たしました。

本市の代表は、20代から30代のメンバーで結成され、「楽しく、のびのびと」をモットーに、大会では持てる力を精一杯発揮し、チームが一丸となって優勝を勝ち取りました。

これからのますますの活躍を期待しています。

次に、県中学校総合体育大会の結果についてです。

7月11日から30日まで、県中学校総合体育大会が開催され、出場した選手それぞれが、これまで積み重ねてきた練習の成果を精一杯発揮しました。

石和中学校のソフトテニス男子団体及び個人、弓道男子団体及び個人、相撲個人、陸上女子個人、一宮中学校の相撲団体、陸上男子個人、春日居中学校の卓球男子個人、陸上女子個人において、優勝の栄誉に輝いたほか、多くの選手、チームが優秀な成績を収めました。

次に、11年ぶりに笛吹市で開催された夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会についてです。

7月24日、笛吹みんなの広場において、目標としていた参加者数1,000人を上回る1,200人以上の皆様に御参加いただきました。

NHK テレビ・ラジオ体操指導員を務める「鈴木 大輔」さんの指導の下、清々しい朝の風を感じながら、世代を超えて多くの皆様と一緒にラジオ体操を行い、地域の絆を深めました。

次に、笛吹市夏祭りについてです。

7月20日から8月16日まで開催した「笛吹川石和鵜飼」には、延べ14,000人が訪れ、伝統ある全国唯一の「徒歩鵜」を多くの皆様が観覧されました。

あわせて、1日2組限定の鵜匠体験は、募集初日にすべての体験枠が埋まり、24組、45人が実際に鵜匠の姿に扮して川の中で鵜を操るという、ここでしかできない体験に、参加者は目を輝かせて楽しんでいました。

また、8月22日には、笛吹市夏祭りのフィナーレを飾る「第62回石和温泉花火大会」を開催し、55,000人を超える多くの来場客で賑わいました。

今年は打ち上げ場所を鵜飼橋から石和橋の間に集中させ、観客席の目の前で、花火が打ち上がる迫力ある演出をするとともに、出店スペースを鵜飼橋上流に集約したことで、観覧スペースを広く確保し、より多くの皆様が安全に花火を楽しむことができるよう、環境整備を行いました。

1万発を超える花火が、夜空一面に打ち上がり、色とりどりの大輪の花を咲かせると、その圧倒的な迫力と美しい光景に、会場からは大きな歓声が上がりました。

次に、子育て世帯への食料支援についてです。

本市では、平成28年度から、夏休みなどの学校給食が提供されない期間を中心に、子どもの食事が安定して確保されるよう、認定NPO法人フードバンク山梨と連携し、生活の支援を必要とする子育て世帯への食料支援を行っています。

昨年度に引き続き、本市の「子ども家庭支援事業」とフードバンク山梨の「こども支援プロジェクト」により、7月、8月、12月に子育て中の生活困窮世帯へ食料支援を行うこととしており、7月と8月には、対象の約200世帯に食品を届けています。

今後、冬休みを控えた12月に、改めて対象の世帯に食料支援を行います。

次に、第1回ふえふきふれあいフェス みんなでつながる地域共生イベントについてです。

本市では、障がいのある方もない方も、共に支え合い、地域で安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指しています。その一環として、9月26日、障がいのある方とな

い方の交流を深めるふえふきふれあいフェスを、笛吹市スコレーセンターにおいて、開催します。

当日は、障がいのある方が手掛けた作品の展示や授産品の販売会、福祉関連企業や支援学校による展示、手話体験などのほか、障がいのある方によるダンスやパフォーマンスなどの発表を行います。

どなたでも楽しむことができるイベントですので、ぜひ多くの皆様に御参加いただきたいと思います。

令和8年8月31日

笛吹市長 山下 政樹